



# Weekly Report

2006~2007年度  
国際ロータリーのテーマ  
率先しよう  
2006~2007年度  
ウイリアム・ヒル・ボイド

創 立:1980年(昭和55年)1月10日  
会 長:遠山 堯郎  
幹 事:天野 正明  
会報委員長:稲垣 豊  
例 会 日:毎週木曜日 PM12:30~  
会 場:ヒルトン名古屋  
事 務 局:460-0008  
名古屋市中区栄1丁目33  
ヒルトン名古屋910号  
T E L:052-211-3803  
F A X:052-211-2623  
M A I L:2760nagoya@mizuho.rc.jp  
U R L:http://www.mizuho.rc.jp/

## 第1302回例会

## ロータリー理解推進月間

2007年1月11日(木) 晴 第24回

司 会:(高木 勝会場委員長)  
齊 唱:「君が代」「奉仕の理想」  
ゲ ス ト:第2830地区パストガバナー(弘前RC)

関場 慶博氏  
館 健吾さん夫人  
ビ ジ タ ー:第2760地区 ガバナー  
// R財団委員長 深谷 友尋さん  
// 新世代委員長 加藤 康治さん  
// 新世代副委員長 藤井 忠さん  
// RAC委員 加藤 辰己さん

### 会長挨拶

遠山堯郎会長

皆さん改めて明けましておめでとうございます。今日は、名古屋瑞穂ロータリークラブ第27回目の創立記念例会です。平成19年が始まりました。すでに10日も過ぎてしまいました。今年は皇暦では、2662年、ユダヤ暦では5768年となります。皆さまは、熱田神宮はじめ多くの神社に参拝されたことと思います。私も参拝をして参りました。家族と会社、そして社会と世界が平和でありますように!



昔、名誉会員の春日さんに聞かれました。「金ちゃん、神社へお参りする時はどんなふうに向かうの?」と。私は答えられませんでした。すると春日さんは、「神様は何処の誰がお参りに来たのか判らないので、御願いをするんでなく...ですが挨拶に参りました」と言うように教えて頂きました。なるほど!と納得しました。それ以来、私は、神社の鳥居をくぐると、まずは柱のかけに立ちまして、「名東区の遠山堯郎でございます」と、口の中でつぶやいてから、お願いでなくて挨拶のお参りをしています。

さて、あと5年すると、2012年になります。2012年12月23日は、信じたくありませんが、フォント・ベルト到来だと言われています。太陽系全体が超電磁波の中に突入していくと言うことだそうです。すでに、地球で様々な天変地異、異常現象が起きています。異常な夏、異常な冬など地球上のあらゆる人々が体験しています。フォント・ベルトが起きると、北極は今の北極点に留まるのではなくカナダに移ると言われています。そうすると、カナダやアメリカ合衆国は恐るべき寒さの中に閉じ込められていく。そうしてロシアのシベリア地域は緑うるおう地となるそうです。そのほか様々な変化がこの地球に現れることとなります。私たちロータリアンは、従来にも増して、関係諸団体も環境に関心を注ぐこと事が大切な年の始まりになったと思います。

最後に、昨年末、台北延平RCの例会訪問後の懇談会に出席して頂きたい方がありましたが、年末忘年会シーズンで席数の確保も上手く出来ず、失礼があったことを心よりお詫び申し上げます。

### 出席報告

倉澤 寛出席副委員長

会員73名 出席59名 (出席計算人数53名)

出席率84.91% 12月21日は補填により 92.31%

### 幹事報告

天野正明幹事

- ・本日、下期会費の請求書を送付致します。1月末までにお振り込み下さい。
- ・次週1月18日(木)は11時より第6回長期ビジョン委員会、13時35分より第7回理事会です。会場はいずれも9階「ことぶきの間」です。関係各位はご出席ください。
- ・新入会員の梅田さんはニコボックス・出席委員会の所属とします。カウンセラーは会員選考委員長の稲葉さんをお願いします。

### 臨時例会変更のお知らせ

名古屋南			2/7(水)	
名古屋北			2/9(金)	2/16(金)※
名古屋東			2/5(月)	2/12(月)※
名古屋守山			2/7(水)	
名古屋みなと				2/16(金)
名古屋東南	1/24(水)		2/7(水)	
名古屋名東			2/6(火)	
名古屋名北			2/7(水)	
名古屋千種		1/30(火)	2/6(火)	2/13(火)※
名古屋大須		2/1(木)		
名古屋栄			2/5(月)◆	2/12(月)※
名古屋名南			2/6(火)◇	
名古屋昭和			2/5(月)	2/12(月)※
名古屋西南				2/15(木)
名古屋錦			2/6(火)	
名古屋東山			2/8(木)	
名古屋葵			2/8(木)※	
名古屋空港				2/12(月)※
名古屋清須	1/23(火)			
尾張中央	1/24(水)			
豊山一城北		1/30(火)		

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00~18:00となります。

◇はサイン受付時間が17:30~18:30となります。

### ニコボックス

倉澤 寛ニコボックス副委員長

- ・今年も宜しくお願いします。

#### 第2760地区 ガバナー 齋藤 直美さん

- ・日頃は新世代が大変お世話になっております。

#### 第2760地区 新世代委員長 加藤 康治さん

- ・2830地区パストガバナー関場慶博(弘前RC)の卓話を拝聴できる喜び、創立記念例会おめでとうございます。

#### 第2760地区 新世代副委員長 藤井 忠さん

- ・創立記念例会おめでとう。

#### 第2760地区 R財団委員長 深谷 友尋さん

- ・1)第2830地区関場慶博パストガバナーをお迎えして。
- ・2)1月2日は小生の誕生日でした。還暦まであと2年となり、少し感慨深いものがあります。

稲葉 徹さん



・1月2日、妻の誕生日でした。お花を有難うございました。今年も宜しく願い申し上げます。12月31日に妻が足を骨折。花ノ木C.C.でご参加の皆様にご迷惑をおかけしました。**大島 浩嗣さん**  
 ・1)本日1月11日は家内の誕生日です。また、1月27日は私の70歳の誕生日です。知らぬ間に古希を迎えるようで、嬉しいのか、悲しいのか複雑な気持ちです。  
 2)本日、青森から関場バスタガバナーをお迎えて。

**野崎 洋二さん**

・妻の誕生日、お花を有難うございました。**松岡 道弘さん**  
 ・年末の家内の誕生日にお花をいただき有難うございました。本年も宜しく願い致します。**田中 隆義さん**

・1)新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。  
 2)1月8日の女房の誕生日にきれいな花を頂き、どうも有難うございます。**長坂 邦雄さん**

・「明けましておめでとうございます」関場バスタガバナー並びに斎藤ガバナーをお迎えて。創立記念例会が盛大に開催されることをお祝いで。**高村 博三さん**

・明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。本日は2830地区の関場バスタガバナーにお越し頂き、遠い所を有難うございました。**増田 盛英さん**

・明けましておめでとうございます。年賀状有難うございました。本年も宜しくお願い致します。**松井 善則さん**

・創立記念例会で、第2830地区バスタガバナー 関場慶博氏に来て頂きました。有難うございます。**遠山 堯郎さん**

・1)関場バスタガバナー、斎藤ガバナーをお迎えて。  
 2)27周年創立記念例会を祝して **天野 正明さん**  
 ・本年もよろしく。喪中につき、年賀状などの挨拶を失礼致しました。

**八木沢幹夫さん**

・去年の暮れに女房が腰の骨を折り大変な正月でも今年が良い年にしたいと期待しております。**平野哲始さん**

・新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。バスタガバナー 関場氏をお迎えて。講演有難うございます。**岩本 成郎さん**

・大川さん、大和さん、暮れには大変お世話になりました。**岩根 敬泰さん**

・新入会員です。よろしくお願い致します。**梅田 朋嗣さん**  
 ・謹賀新年。創立記念日、重ねておめでとうございます。

**森 真佐雄さん**

・バスタガバナー 関場様をお迎えて。**水谷由紀夫さん**  
 ・創立記念例会を祝して。

**大川 嘉成さん 館 健吾さん 西 初彦さん**

・明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い致します。

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 市岡 正蔵さん | 入江 理さん  | 布目 徳さん  |
| 吉木 洋二さん | 入山 治樹さん | 伊藤 豪さん  |
| 倉澤 寛さん  | 森 恒夫さん  | 守谷 巖樹さん |
| 長瀬憲八郎さん | 田中 政雄さん | 田口 豊さん  |
| 松波 恒彦さん | 高木 勝さん  | 高須 洋志さん |
| 亀井 直人さん | 梅村 昌孝さん | 稲垣 豊さん  |
| 岡本 忠史さん | 中川啓二期さん | 小串 和夫さん |
| 泉 憲一さん  | 近藤 洋輔さん | 嶺木 一夫さん |
| 鈴木 圓三さん | 内田 久利さん | 山田 鎮浩さん |
| 足立 謙祐さん | 江口 金満さん | 佐藤 善乙さん |

**1月誕生日おめでとう**

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 天野 正明さん | 稲葉 徹さん  | 田中 英雄さん |
| 岩田 修司さん | 吉木 洋二さん | 本多 清治さん |
| 落合 諭さん  | 野崎 洋二さん |         |

**新入会員入会式**

遠山堯郎さんから推薦された梅田朋嗣さんは、職業分類委員会により「放送事業」に分類されました。守谷巖樹R情報委員長と、稲葉徹会員選考委員長との面談を経て、理事会の承認を得ました。その後、会員のご賛同も得られたため、本日当クラブに入会されることになりました。



**梅田朋嗣さん紹介:遠山堯郎会長**

兼ねてから、会長・幹事経験者の方々から大きな会社からの会員をとの声が上がっておりました。大きな会社もしくはその関連会社をあたっておりました結果、中部電力の関連会社である中部ケーブルネットワーク株式会社 代表取締役社長の梅田朋嗣さんをご紹介頂きました。偶然ではありますが、私は梅田さんと30年近いお付き合いになります。事業所は名古屋市瑞穂区州雲町にあります。ご自宅は名古屋市の名東区にあります。学歴は慶応大学経済学部を卒業されています。昭和45年に中部電力へ入社されました。平成13年6月から中部ケーブルネットワーク株式会社 代表取締役社長に就任されました。奥様とすでにご結婚されているお子様が1人いらっしゃいます。趣味はゴルフでハンディキャップは10で、大変お上手でいらっしゃいます。本日から放送事業(Broad casting service)でご入会頂くこととなりました。

**バッジ・名札授与:遠山堯郎会長**

**所属委員会・カウンセラー発表:天野正明幹事**

所属委員会は出席・ニコボックス委員会です。カウンセラーを稲葉 徹さんをお願いします。

**梅田朋嗣さんあいさつ**

皆様はじめまして、梅田でございます。私の勤めている会社は、愛知、岐阜県の11の市や町でケーブルテレビ、インターネット、IP電話事業を行っております。何かご縁がありましたらよろしく願い致します。ロータリークラブは初めてで、皆さんにいろいろ教えて頂いて一生懸命やっています。今後ともよろしく願い致します。

**斎藤直美ガバナー挨拶**

改めましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本当にありがとうございました。本日お越しになっております関場慶博バスタガバナーは、昨年度、私がガバナーエレクトを勤めました時の研修リーダーで、大変お世話になりました。



昨年は地区大会が無事に終了致しました。また、地区協議会も盛大に行われました。この2つの行事では、たぶん今後起こらないであろうと思われる程、多くの方にご登録頂きました。地区協議会は1,974名、地区大会は約2,600名に登る皆様にご協力頂きました。その地区大会の席上で、第2830地区と友好協定を結びました。早速ではありますが、今月末に青森ヘスキーに行き参ります。3月にはガバナーを中心として、こちらの方へゴルフをしに来ます。そして、日程が合いましたら、遠山会長のお骨折りで弘前城の桜を、ロータリーアクトの皆さんと見に行く計画も持ち上がっております。その様に友好地区としての親睦が順調に計画されております。そういったこともございますので、以後、親密にお付き合いを続けていくことが出来れば有難いと思っております。

最後に、嬉しいニュースがあります。豊田地区にロータリーアクトが今年度中に立ち上がる予定でございます。今のところ地区としては順調に動いております。本当にありがとうございます。どうぞ今年もよろしく願い致します。

**乾杯**

**守谷巖樹直前会長**

誠に僭越ではございますが、恒例によりまして直前会長が乾杯の音頭をとることになっておりますので、務めさせていただきます。今日の例会はここへ来るまで、斎藤ガバナー他お歴々が多数ご参加下さるとは思っておりませんで、大変緊張しております。本日はノンアルコールワインをご用意致しましたので、お楽しみください。本日ご出席のロータリアンの方々をはじめ、瑞穂ロータリークラブの会員各位のご健勝を祈念致しまして、乾杯を致したいと思っております。それでは皆様、声高らかにご唱和ください。乾杯!





## 「ロータリーこの素晴らしき世界」

皆様こんにちは。私は2000年～01年にガバナーを務めました。私は、青森県弘前市の隣にある、藤崎町という小さな街で診療所を開業しております。私は毎朝、唯一の健康法として朝の30分間散歩を致します。そうしますと私と同じように散歩をする方がいらっしゃいます。その中のお一人に、藤崎町でりんご加工会社の社長さんと一緒に過ごす機会がありました。その方が「今の人達は、お金では動かない時代なのかな」といわれました。もうお一方は学校の校長先生なのですが、今の人達は我々の年代であつたら学校の担任の先生が指示を出せばさっと動いたものだけけど、今そういう人達は権威では動かないものなんだね、といわれました。人というのはお金や権威では動きません。であれば何で人は動くのかを考えてみましたが、やはり私たちは、自分の人生における心がふるえるような感動といったものがあって、初めて動けるのではないかと思います。感じて動くという字のごとく、感動こそが我々の人生において、実はとても大切なものなのかなと思っております。私はロータリーに入会してから18年になりますが、自分自身が今までロータリーを続けることが出来たのも、そういった感動みたいなものが、おそらく自分をロータリーの世界に留めておいているのかと思っております。



私は幼い頃、東京の鐘ヶ淵に小学校3年生まで住んでおりました。その頃私は野球少年で、学校が終わりますとすぐに近くの運動場へ遊びに行っておりました。ところが、私の所は両親とも働いておりましたので、夕飯のおかずを買いに行くのが私の役目になっていました。私がいつも一人で買い物に行くと、そこのおばさんは「サービスだよ」と言って揚げたてのコロッケを2個くれました。子供心にとっても嬉しいものでしたし、それが励みとなってお総菜を買いに行く事が1年、2年と続けられたのだと思います。おばさんにとって見ればちょっとした損をしてコロッケをくれる、そしてそれが私にとってみれば大変嬉しいものでありまして、そのサービスという語感が僕にとってはとても気持ちいいものでした。そこで私たちのロータリーと言うものを考えたときに、私はロータリーの2つの原則というものがあるだろうと思います。一つは「フェロウシップ」だと思ひますし、もう一つは「サービス」です。おばさんが私にくれた「サービス」は我々ロータリアンとしてする「サービス」と何ら違いはないと思ひます。例えばいま、R財団では1人につき年間100ドルをという形で寄付をしておりますが、私たちにしてみればちょっとの損ですが、それが発展途上国の人達にとっては未来への希望となって、皆さんがさらに生きる励みとなっていく。それがまさにロータリーのサービスであると思っております。

東京から青森に移り住み、大学は福島で医学部を終え、27才の時にアフリカ行きの話が持ち上がりました。妻と10ヶ月になる長女を連れて、ガーナの地へ降り立ちました。アフリカで私は栄養失調病院に勤め、現地の医師のサポートをしました。そして私が赴任してすぐの頃、3歳の男の子が運ばれてきました。栄養失調で体重が8キログラムしかありませんでした。その上、いろいろな感染症も重なり、熱は高く、意識もない状態でした。私が彼の担当になり、日本で受けた医療教育のままにやろうとしましたが、現地の看護婦長であるオードリーさんは悲しげな顔をして指示に従ってはくれませんでした。なぜなのかと尋ねると、ここだけではなく今ガーナには、抗生剤や点滴などはないといひました。ではどう治療すればいいのかと逆に尋ねると、彼女は米のとぎ汁を飲ませるんですと答えました。ですがもう意識を半分なくしている子供に米のとぎ汁を飲ませる方法はありません。ですから私はもう治療する方法はない、この子は助からないといひました。ですが彼女はその子供を病棟へと連れて行き、一生懸命に米のとぎ汁を飲ませようとしていました。そこで彼女が示してくれたものは「医者である前にまず人間でしょう。それならば何もなくても何か出来ることを模索するべきではないのか」として彼女は米のとぎ汁を飲めないのであれば、冷たくなっていく身体をさすったり、そばで悲しみに暮れている母親を励ましたり、そしてみんなでこの死に行く子供

のために祈ってあげる、そういったことを彼女はしていました。私自身はとても恥ずかしかつたし、医者として何も出来なくても、人間として出来ることを忘れていたなと思ひます。そのことが自分にとっての原点であると言う気がしています。彼女と2年間、一緒に仕事をしましたが、彼女は私がアフリカを去るときに飛行場まで送ってくれて、その時に「あなたは2年前、先進国から来た傲慢な若い医者だった。だけど今あなたは、私たちアフリカの友人だ。同じアフリカの大地にいる仲間だ。」とってくれました。その事が私にとって最高の褒め言葉でありました。

ガーナにいた頃、ゴルフをしたことがあります。キャディーがついてくれますがみんな子供です。なぜかと言ひますと、1ラウンドにつき50円～100円もらえ、そのお金で家族が2～3日暮らすことの出来る食料を買うことが出来るのです。その中の一人の子供と仲良くなり、彼の家に連れて行ってもらいました。家族を紹介され、最後に家の奥にきらっと光るものがありました。猫か犬でもいるのかと思ひましたが、そこにいたのは彼のおばでした。ポリオに感染して足が動かず、ずっと家の中で過ごしていると言ひことでした。ポリオという知識としてはありましたが、実際にポリオの患者さんを見ることはありませんでした。ところがアフリカに行って初めて見たポリオの患者さんに驚き、愕然としました。こんなにもひどい病気だったのかと言ひことを初めて知りました。その後、日本に帰ってきてからはその事をすっかり忘れていました。もう一度ポリオと出会うのは、ロータリークラブに入ってからのことです。

先ほど私は2000年～2001年のガバナーだったと申し上げました。小さな診療所で、医師は私一人だけです。その中でガバナーにならないかと言われたときに迷いました。当時の会長は佐藤さんという方で、彼は真っ先に僕のところへ来て、ガバナーにならないかと言われました。これより前に佐藤さんとは次のような話がありました。私は1988年にRCに入会しましたが、例会は全然面白くなく、出席しなくなりました。その時に先輩ドクターの佐藤さんが毎回例会の時だけ迎えに来てくれました。「ああ、これがRCなのか」と思ひました。ですから例会がつまらないとか、あるいは今日は何だか行きたくないと言ひことではなく、例会というものは行かなくてはいけないと思ひました。私の場合は、毎回迎えに来てくれた佐藤さんの恩義に報いるために出席しようと思ひに決め、毎週100%出席を続けています。そんな佐藤さんからガバナーのお話を頂いたので、とても迷った訳です。そんな時に私の背中を押してくれたのが妻であります。「そんなに悩んでいないで、引き受ければいいじゃない」と言ひました。私は借金もあるし、収入がなくなったらどうするのかと言ひました。すると彼女は「病気になると思えばいい。」といひました。極めつけの言葉は「どうせあなた、アフリカで一度死んだ人生じゃないの。命があるだけ儲けもの。」と言われました。それはなぜかと言ひますと、断水や停電などもありましたが、クーデターにも何度か巻き込まれたことがあります。収容所のようなところに入れられ、下手をすれば処刑されてしまうのかという体験をしました。ですがその時に助けてくれたのが、同じ病院で働いていたガーナの同僚達でした。私がつかまったのを知って、みんなでクーデターを起こした兵隊に掛け合ってくれ、無事釈放されたという経緯があります。そんなわけで「アフリカで一度死んだ人生」という言葉が出たのです。そして「あなたが地区のロータリアンの役に立つならいいじゃないの。今までの蓄えを使ってもいいし、借金だつてまた1年後に働き始めたら返せばいいじゃない。」と妻に励まされてガバナーを引き受けました。そして今までは、ガバナーになって本当に良かったと思っております。

そして私はガバナーになってやりたいことが2つありました。一つはポリオワクチンの投与活動に行きたかつたのです。インドでのワクチン投与に、ニューデリーのスラム街を訪れました。世界中で1億4千万人の子供に一斉投与するにはとても医者だけでは足りません。ですから妻も行きまして、インターアクターやローターアクターにも参加してもらいました。ワクチン投与に参加してくれた人の中で2名、印象に残っている人達がいます。一人はローターアクターの菊池君という青年です。その菊池君に日本のお母さんから電話があり、お父さんが心筋梗塞で倒れたとのことでした。そして私は菊池君にすぐに帰るなら手配をするからと言



いました。すると彼は「いま父は危険な状態だが、その父が母に言うには「いまインドに行っている息子と呼び返すな、なぜならば私の息子はインドに子供の命を救いに行くと言って張り切って出かけていった。それなのにワクチンを投与せずに帰ってきては一生後悔することになる。だから呼び戻すな」と父親が言っていますので、ちゃんとワクチンを投与してから帰りたい。」と言いました。彼は、次の日ワクチン投与に参加して、その翌日、日本に帰りました。帰ったときには意識があったそうですが、それから1週間後、亡くなられたそうです。ですが彼は「後悔していません。父も自分を誇りに思ってくれている。」と言ってくれました。私はとても感動しました。もうお一方は、弘前RCの同僚で、建設会社社長のSさんです。そのSさんは「RCは異業種交流のために入会をした。社会奉仕や国際奉仕には興味が無い」とおっしゃる方でした。インドに向けて出発する1月19日、その日の青森空港は雪でした。その空港にSさんが現れました。てっきり見送りにでもきてくれたのかと思いましたが、彼の口からは「俺もインドに行くよ。おまえがガバナーとしてインドに行くのに、数人程度で行くのはみっともないから来てみたが、こんなに大勢いるなら来なきゃ良かったな」と言いながらも飛行機と一緒に乗って行ってくれました。そしてワクチン投与の日、私と妻とSさんの3人でチームを組んでワクチンを投与しました。私が20人ほど投与して妻と交代し、そしてSさんに交代しました。ワクチンは2滴投与して完了なのですが、その2滴がなかなか落ちてこないのです。あまりにも時間がかかりすぎるのでSさんを見ると、彼は涙で顔をくしゃくしゃにして、手が震えてワクチンが落とせないでいました。それでもなんとか落としました。そして彼は1人投与して十分だと言って廊下へ出て行きました。私も心配になったので、後を追いかけて行って話しかけました。すると彼は「私がワクチンを落とそうとしたら、赤ちゃんが目があった。そしてこのワクチンを投与すれば、この子は将来ポリオにかからないで済むんだ、この子の将来は自分の手にかかっているのだと思ったら、とても感動してしまった。」と言いました。そして「俺はRCとは職業奉仕だって言っていたし、寄付なんてとんでもないと思っていたけど、このポリオの投与活動を誤解していた気がする。実際インドへ来て自分の手でやってみたら、こんな素晴らしいことをロータリーがやっているとは知らなかった。」と言いました。そして彼は日本に帰ってきて、今度財団に寄付しようかな、といった話もしていました。そしてまた来年ワクチン投与に行こう、妻も連れて行くからと言いました。実は彼の話には後日談があります。一代で会社を興し、年商も50億円という会社に成長しましたがパブルが弾けた後、会社が倒産してしまいました。去年の暮れに1枚のはがきが届きました。そこにはSさんの新しい会社を興す記念の会に出席して欲しいというものでした。新たな会社は僅か6名での出発でしたが、以前のSさんの顔よりも、よっぽど輝いて穏やかに見えました。その後、彼と飲みに行って話をしました。またよく会社を興せましたねと聞きますと、「本当はもう諦めていた。年商50億の会社と比べてこんなちっぽけな会社…とも思いました。でもなんでもう一回やる気になったか分かりますか？インドまで一緒に行って、一緒にワクチンを投与して、あの時の子供がもう7歳ぐらいになっているでしょう。その子供が、自分が赤ちゃんだった時に、日本から来たロータリアンがワクチンを投与したお陰で、あなたはポリオにならないで生きていられる、とお母さんから聞いた時、その俺が会社が倒産してひねくれていたらどうするんだと。あの赤ちゃんのためにも一度再起しよう決意したんだ。」と言われてました。それを聞いた時、私はすごいなと思いました。Sさんは40代で大会社を興して倒産して、普通ならやめてしまう所を、インドで出会った赤ちゃんの瞳を忘れずにもう一度やってみようと思ったこと、そしてなによりも弘前RCの仲間が彼のそばに常にいた、そういったことがロータリーの「フェロウシップ」だと思っています。

先ほどガバナーになってやりたいことが2つあると言いましたが、その一つは弘前RCが25年間続けているネパールへの農業支援があるのですが、それにインターアクター、ローターアクターを連れて行きたいと言うことでした。そしてネパールへ連れて行ったインターアクターである高校生が印象に残っています。彼女は不登校でしたが、インターアクターだけは続けていました。ネパール行きに真っ先に手をあげたのも彼女でした。カトマンズ空港に降り立ちましたら、ネパールの子どもたちが大勢寄ってきました。すると彼女は日本に帰りたいと言いました。なんとか彼女をなだめて、そこから車で

5時間のところにある小学校に連れて行きました。そこで子どもたちに、折り紙でつるの折り方を教える事を頼みました。言葉は通じませんが、彼女は一生懸命教えました。午前から午後3時までかかって、ようやく全員がつるを折ることが出来ました。すると子どもたちが彼女を取り巻いて出来た!と大喜びしました。すると彼女はその子どもたちを抱きしめて泣きました。前の日に子どもたちに囲まれて日本に帰ろうとした彼女が、今度は子どもたちを抱きしめてお互いに喜び合っている姿を見て、こういう感動を新世代に与えることができるのがロータリーなのだ、と思いました。そして彼女は帰りの飛行機でこういいました。「私はネパールへ来れば何かが変われると思っていましたが、子どもたちと触れ合っただけでよかった。日本に帰ったら高校に行って勉強をして、将来は貧しい環境にいる子どもたちの手助けが出来ればと思います。」そして彼女は大学へ進み、勉学に励んでいます。そしてできれば国連に勤めたいとメールをくれました。不登校だった彼女がネパールでのロータリーのプログラムを通して、大きく変貌する様を見ただけでも感動を与えられました。

「私たちは年をとるに連れて2つの手を持っていることに改めて気がつきます。一つの手は自分のため、愛する家族のために使い、もう一つはあなたの助けを必要とする人のために使いなさい。」と言ったのはオードリー・ヘップバーンでした。彼女は晩年、ユニセフの親善大使を勤めていました。そこでロータリーのことを思うのですが、ロータリーとはそんなに難しいものなのでしょうか？もっとシンプルに考えて、オードリー・ヘップバーンが言うように、一つの手は自分自身の職業や生活を支えて、もう一つは自分の為ではなく自分の助けを必要としている人のために使おうと言うのがロータリーではないでしょうか？

先ほどガバナーになるのに背中を押してくれた人がいるという話をしましたが、一人は妻で、もう一人は地区幹事をして下さった三浦さんです。彼は私のことを「忘年の友」と呼んでくれました。彼は私にとって大きな存在でした。私がガバナーの任期を終えるころ、大腸ガンであることが分かりました。一旦手術をしてよくなりましたが、肺や腎臓へ転移しており、再入院となりました。そして一昨年の暮れにお見舞いに行った時、彼が忘年会をやるよと言いました。「俺にとっての人生最後の忘年会は関場とやるんだ」といいました。私は最後だなんて言わないで下さいよと言いましたが、彼は自分の死期を悟っていたんだと思います。ですが入院中で治療をしている身で、どうやって忘年会をするのかと尋ねますと、おまえが考えると言うことで、病院から抜け出して近くの居酒屋へ行きました。僅か30分ほどの時間でしたが、その中で「ロータリーに入って本当によかった。いろいろな人に出会えたり、おかげで楽しい人生が送れた。そして関場と出会ってガバナーと地区幹事をやる事が出来た。この記録はロータリーがある限り永遠に残ることになる。おまえのおかげで楽しい人生だった。」というわけです。そして彼は次の年の2月に亡くなりました。

私たちロータリーは100年続いて参りましたが、ではこれから存在意義はあるのでしょうかと考えました。そして存在意義はある、続けていきたいなと思直しました。やはり私たちロータリーは人を信じない人に対して、こちらの不信で答えるのではなくて、信頼関係で答えていくだろうし、あるいは憎しみのある人に対して、憎しみで返せば憎しみは増幅されるだけです。憎しみに対しては愛で答えていく。そして希望のない人達に対しては、希望で答えるのが我々ロータリーの奉仕活動だと思うのです。私はそういった意味でこれからもロータリーの道を皆さんと共に歩いていきたいと思いますし、また皆さんといつかロータリーの道のどこかの交差点で会うこともあるかと思います。その時はどうか声をかけていただければと思いますし、また27周年の記念すべき例会に呼んで頂いた皆様の「フェロウシップ」に心より感謝を申し上げながら、私の話を終わらせて頂きます。どうもありがとうございました。

## 今週卓話

1月18日(木)

会員卓話：高須洋志さん  
テ — マ：「ローターアクト活動について」

## 次週行事

1月25日(木)

第4回CF(中間決算と組織)